

報道発表資料  
平成20年5月9日  
気象庁

## 次世代台風予報技術の開発を目指して特別観測実験T-PARC2008を実施 －米国・韓国等との連携で国際共同観測実験T-PARCに取り組む－

気象庁は、次世代の台風予報技術である“双方向予報システム”の有効性を探るべく、米国、韓国などと連携して特別観測実験T-PARC2008を今夏に大規模に実施

気象庁は、進路予報が難しい台風を対象として、次世代予報技術「双方向予報システム」の有効性を調べる特別観測実験(T-PARC2008)を、この夏、米国などとの国際的共同観測実験(T-PARC)の下で行います。T-PARCは、世界気象機関(WMO)が進める観測システム研究・予測可能性実験(THORPEX)の一環です(別紙1)。

「双方向予報システム」とは、まず数値予報結果を詳細に調べてどこで観測すると予報精度向上に最も効果が高いかを推定し、その場所で集中的に観測を行う予報技術で、次世代の実用化に向けて研究が進められています(別紙2)。

T-PARC2008は、台風の発生、転向さらに温帯低気圧化を対象として、双方向予報システムの技術について、国際的に協力して実施する観測実験です(別紙3)。

気象庁は日本の南海上に接近する台風を対象として、航空機による観測を実施するほか、既存の海洋気象観測船、気象台などでの高頻度の高層気象観測、気象衛星「ひまわり7号」を用いた高層の風の算出等、台風の特別観測を実施し、双方向予報システムの検証を計画しています。(別紙4,5)

期間中、気象庁観測実施本部を設置し、外国実施機関との連絡や数値予報結果の検討を行い、特別観測実施内容を決定します。(別紙6)

なお、本実験のうち、航空機による観測や台風の詳細な構造解析については、科学研究費補助金の助成を受けています(研究課題名:航空機を用いた力学・熱力学場の直接観測による台風の予測可能性に関する研究)。

本件問い合わせ先: 気象庁総務部企画課 電話03-3212-8341(内線2227)  
気象研究所企画室 電話029-853-8603

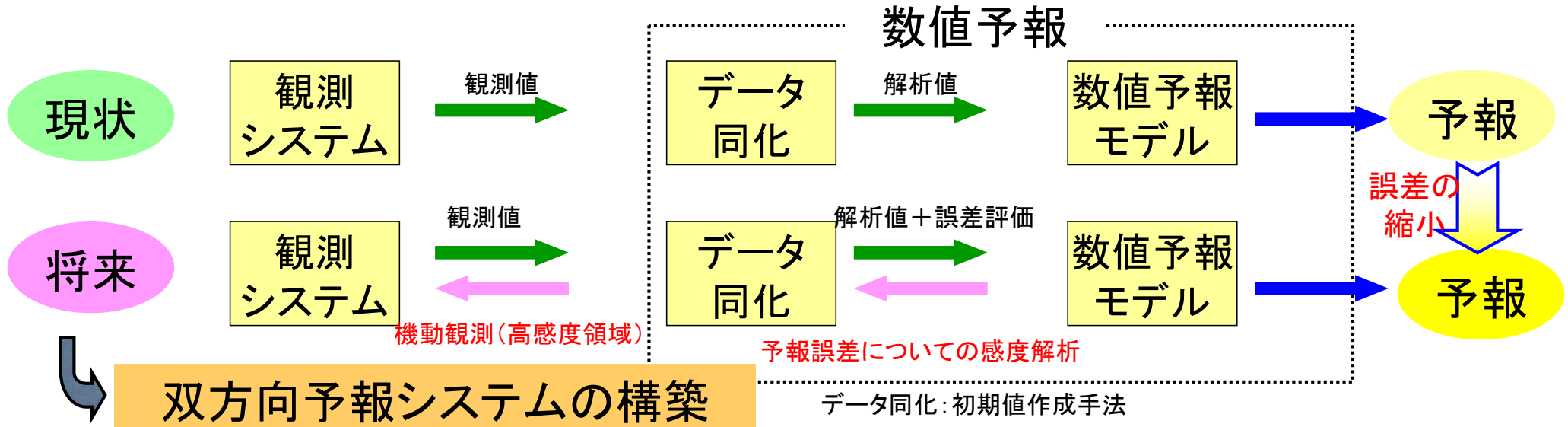
## 世界気象機関(WMO)が進める国際研究計画 1日から2週間先までの社会的に影響が大きい 大気現象の予測精度向上を促進

2003 ~ 2012...

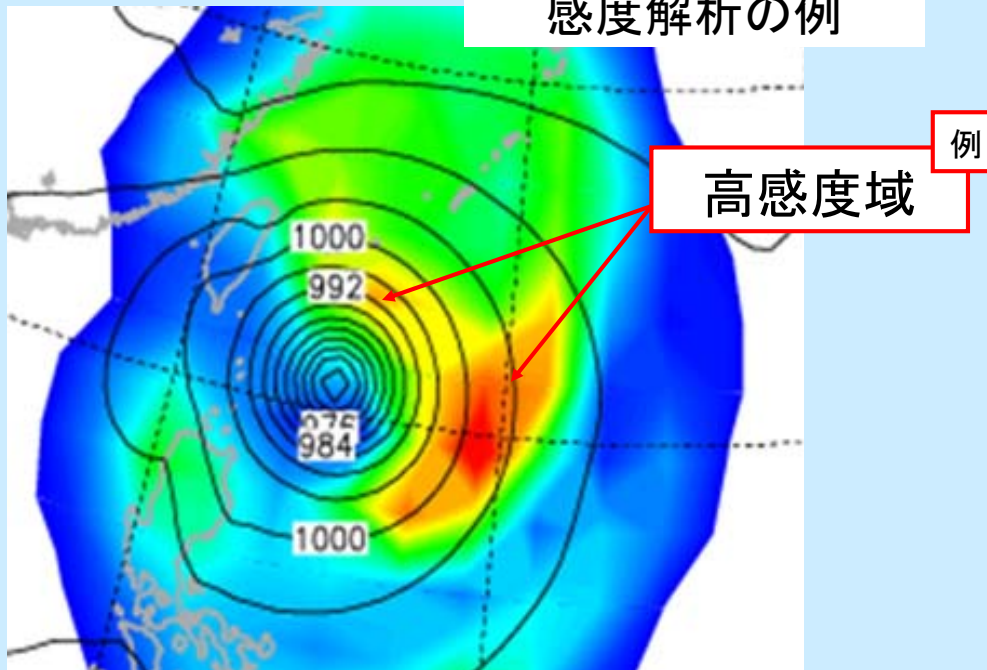


### 主な課題

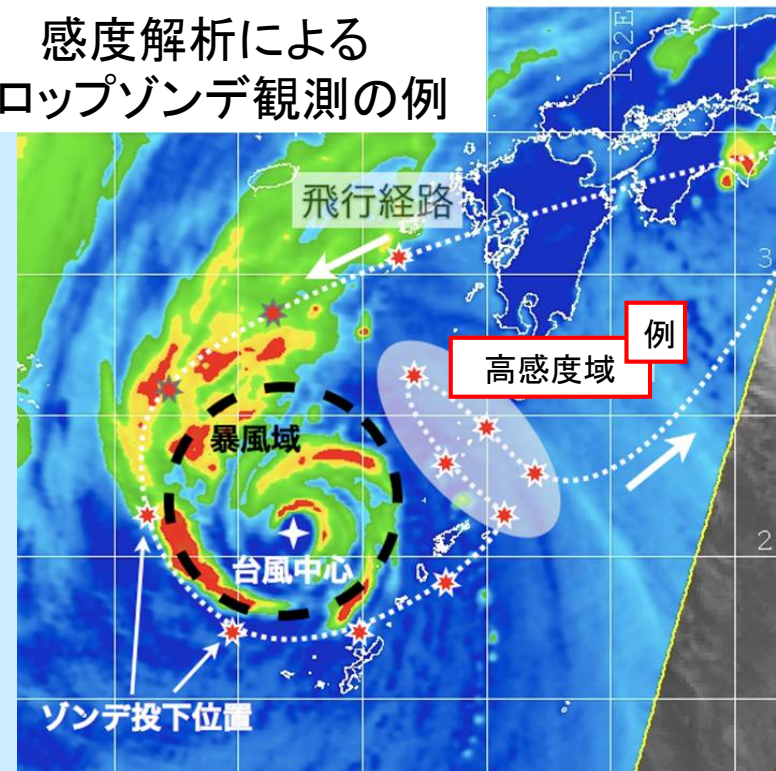
- 1 大規模場が局地的な現象の時間発展及び予測可能性に及ぼす影響
- 2 全球観測システムの新たなデザインと実証
- 3 観測の機動化と初期値作成手法の改善
- 4 改善された予報が社会、経済、環境にもたらす恩恵



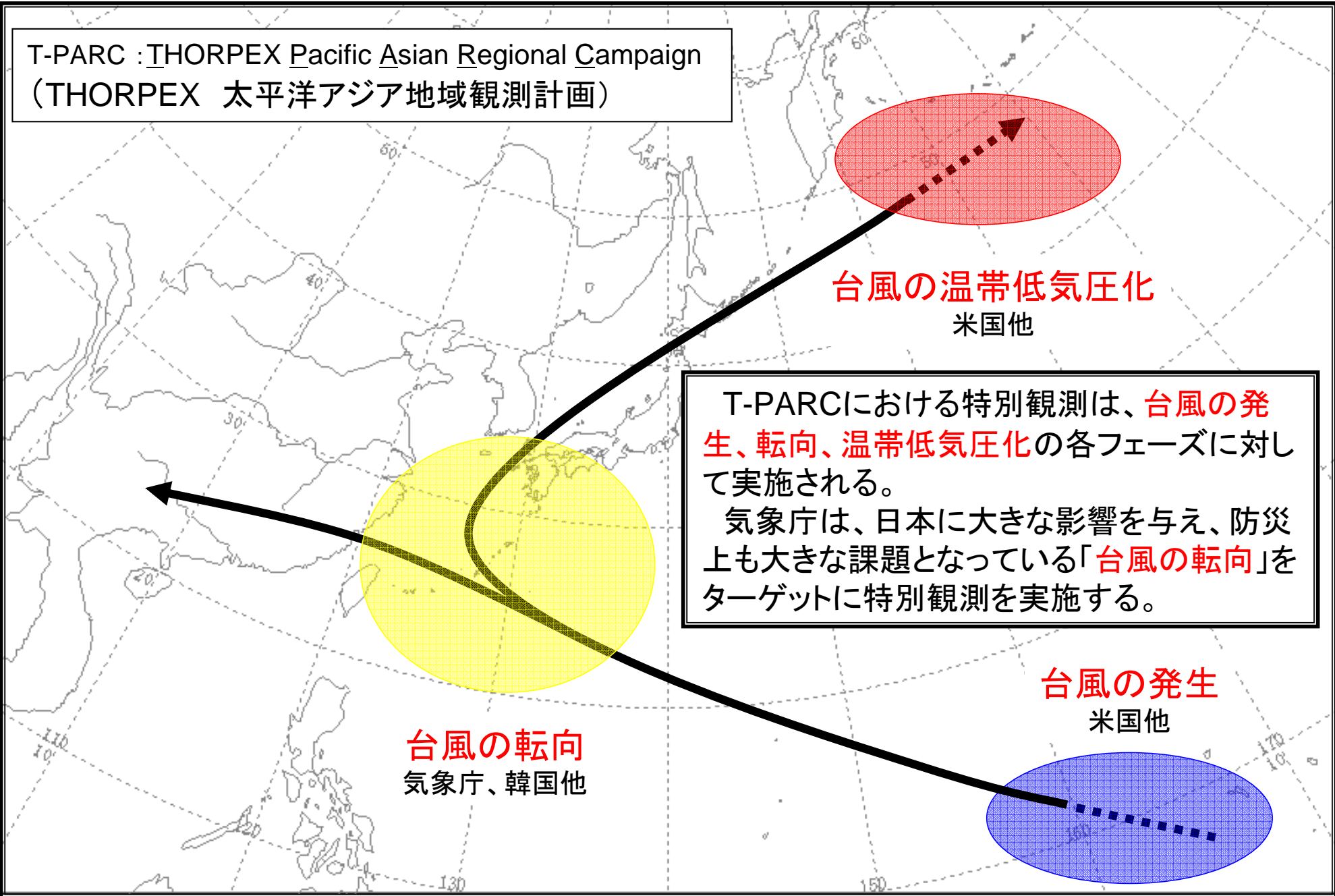
台風予報に対する感度解析の例



感度解析によるドロップゾンデ観測の例



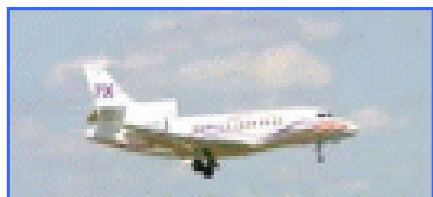
T-PARC : THORPEX Pacific Asian Regional Campaign  
(THORPEX 太平洋アジア地域観測計画)



# 気象庁が実施する特別観測概要

特別観測の期間：  
2008年8月～9月

- 特別観測の種目
- : 高層観測 4地点
  - 🚢 : 海洋気象観測船 3隻2海域
  - ✈️ : 航空機 ドロップゾンデ
  - 🛰️ : 気象衛星 狭領域高頻度観測



航空機  
ドロップゾンデ 観測

パラシュートをつけた観測器を航空機から降下させて大気の気温・湿度・風・気圧などを測定する

九州西方海域  
(清風丸又は長風丸)

沖縄東方海域  
(凌風丸又は長風丸)

八丈島

30N,140E

30N,125E

名瀬

高感度領域の例

特別観測  
対象台風  
存在海域

石垣島

南大東島

20N,125E

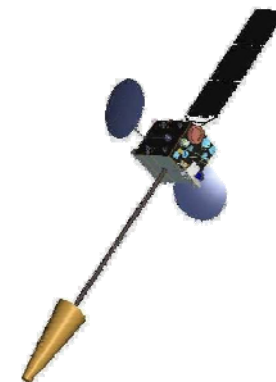
20N,140E

飛行経路とドロップゾンデ投下位置の例  
台風の周辺と高感度領域で観測実施

気象衛星ひまわり7号  
狭領域高頻度観測

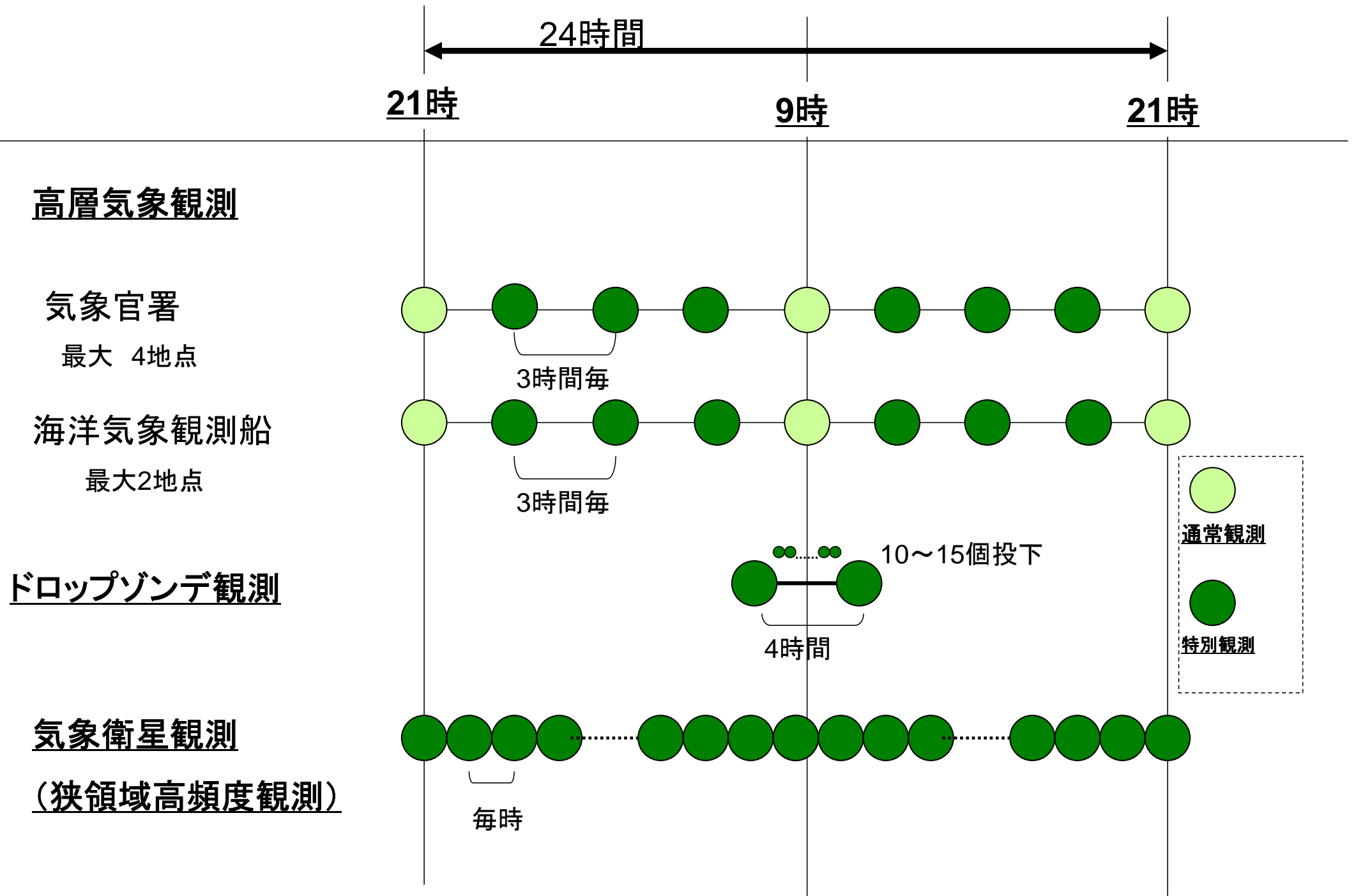
観測範囲を絞った狭領域を高頻度(\*)に観測することで、より細かな雲の動きや雲の変化を観測。

(\*)1時間に北半球3回、小領域について7分間隔2回、または4分間隔3回実施



# 特別観測 時間別観測計画

別紙5



# T-PARC特別観測実施体制

別紙6

